

《 今日の主なニュース 》

～ 日経ニュースなどを中心に抜粋 ～

◆28年度の国債利払い費16.1兆円 財務省が試算公表

・財務省は2025年度予算案をもとに歳出入の見通しを示す「後年度影響試算」を公表した。国債利払い費は28年度に16.1兆円と25年度の1.5倍に膨らむ見通し。国債利払い費は26～28年度について名目3%の経済成長と2%の消費者物価の上昇を前提に置いた。

◆自治体システム標準化、運用費2倍 中核市市長会が調査

・全国62の中核市でつくる中核市市長会は政府が進める自治体システムの標準化により、運用経費が平均で移行前の2.3倍に膨らむ見通しとする調査結果をまとめた。仕様の統一にかかる要件の増加などでシステムが肥大化し、自治体が払う利用料が増えている。半数にあたる30市が2倍以上、うち13市は3倍超だとした。

◆日経消費DI、1月は2ポイント上昇プラス19 2期連続改善

・日本経済新聞社が四半期ごとにまとめる消費関連企業の景況感を示す「日経消費DI」は、2025年1月の業況判断指数がプラス19となり、前回調査(24年10月)から2ポイント上昇。業況判断が改善するのは2四半期連続で、過去3番目の水準。冬ボーナスの増加などで、14業種のうち4業種が上昇した。

《 業界ニュース 》

～ 日経ニュース・日刊工業新聞・新建ハウジングなどを中心に抜粋 ～

◆全国生コン出荷、6年連続でマイナス 24年6.8%減

・全国生コンクリート工業組合連合会が30日発表した2024年の全国生コン出荷量は、前年比6.8%少ない6668万9058立方メートル。前年を下回るのは6年連続。工事現場で働く建設技能者の不足と、資材高による計画見直しが響いた。1～12月の出荷実績として初めて6000万立方メートル台に落ち込み、1976年以降最低を更新。

◆伸銅品生産、24年0.2%減 住設機器向けが低迷

・日本伸銅協会がまとめた2024年の伸銅品生産量(速報)は64万2125トンと、前年比0.2%減。3年連続で前年を下回った。住設機器などに使う黄銅棒の生産低迷が目立った。黄銅棒の生産量は4.4%減の14万1341トン。人手不足などで工期の遅れが続き、国内の住宅着工件数が減ったため、黄銅棒への引き合いも振るわず。

◆TOTO、トイレ技術を半導体に 高機能セラミック多角化

・トイレ最大手のTOTOが半導体向け事業を多角化する。半導体の複雑な加工に貢献するセラミックの利用が、製造装置の素材として広がっている。TOTOは次世代品を開発して「後工程」に進出し、生産体制を増強する。新工場の建設も視野に入れる。半導体向けで磨いた技術を衛生陶器にも活用し、全社の成長の糧とする。

《 注目商品 》

■ハウステック、システムキッチン「Crute(クルート)」

・「わたしらしく、こちよキッチン時間」をコンセプトに、快適な機能とスマートなデザインにこだわったシステムキッチン。上下2段の大きな扉割と横にそろった扉のラインで、ノイズの少ないすっきりした扉デザイン。扉カラーも豊富なカラーをラインナップ。



■ボッシュ、ワイヤレスで電動工具と連動する強力集じん機

・コード式を超えるパワーとスピードのプロフェッショナル18Vコードレス電動工具「BITURBO(倍ターボ)」シリーズから、ワイヤレスで電動工具と連動する乾湿両用のコードレス集じん機「GAS 18V-12MC」を発売。超強力なネオジム磁石を採用。



■パナソニック ノンフロン内蔵型冷蔵ショーケース8機種

・自然冷媒(R600a)を使用したノンフロン内蔵型冷蔵リーチインショーケース8機種の販売を開始。製品の前面に吸気口と排気口を設けたため、背面に放熱スペースをとる必要がなく、壁面にピッタリと設置することができるモデル。開ける際に場所をとらない左右スライド扉。

